

① 不思議な数 π の伝記

② Alfred S. Posamentier, Ingmar Lehmann 著 松浦修輔 訳 ③ 日経BP社

④ 小学校で円周について習って以来親しんでおり、数学のいたるところに顔を出す不思議な数「 π 」に関する本である。 π の紹介や進展の歴史、様々な計算法や π に魅せられ計算と格闘した先人たちの足跡などから構成されている。 π を通して数学の面白さや美しさを発見でき、「楽しめる」本でもある。

⑤ 南原英生先生

① 物語の役割 (ちくまプリマー新書) ② 小川洋子 著 ③ 筑摩書房

④ 人はなぜ物語を必要とするのか。「私は物語を作り出しているのではなく、物語はそこにあり、ただそれをそのまま書いているだけです」と著者は言う。自分が生きるための物語の探し方を教えてくれる本である。作家の物語の作り方を通して、自分探しの旅に出よう。 ⑤ 吉田誠先生

① オンリーワンを求めて：科学を選んだ先輩からのメッセージ

② 滝澤昇、佐藤幸子 編 ③ 近代科学社

④ 研究で新しいことを考えたり、新しいことをみつけるのは、心踊る楽しいことです。

この本は、36人の研究者（知能機械工学科の教員5名を含む）が、どんなきっかけで研究に入り、何を面白いと思っているかをまとめた本です。この本を読んでぜひ研究に興味を持ってください。

⑤ 山田訓先生

① ゲーデル、エッシャー、バウハ：あるいは不思議の環

② ダグラス・ホフスタッター 著 野崎昭弘、はやしはじめ、柳瀬尚紀 訳 ③ 白揚社

④ 1980年代後半、大学生だった私が友人の本棚からGEBを見つけることになったのは、隣にあった赤と緑の本がきっかけ（俗と雅）でした。ご一読頂くには余りある内容で、時間と気力に恵まれない方は、興味のある章を拾い読みしてみても十分な本と言えるでしょう。 ⑤ 藤本真作先生

① もしも月がなかったら：ありえたかもしれない地球への10の旅

② ニール・F・カミングズ 著 竹内均監修 増田まもる 訳 ③ 東京書籍

④ 月がなかったら他に、地球の質量が小さかったらとか、地軸がもつと傾いていたら等々、幾つかの設定を天文物理学に基づきながら検証し、そこではどのような生物が生活したであろうか、はたして人類は誕生したであろうか等を考えていく本です。2005年の愛知万博のテーマ館のひとつになったことでも有名な書籍です。「もしも」の世界を考えることによって、現在の地球環境と生物の進化との関係を考えさせられる一冊です。 ⑤ 内貴猛先生

① 不都合な真実：切迫する地球温暖化、そして私たちにできること

② アル・ゴア 著 枝廣淳子 訳 ③ ランダムハウス講談社

④ 大気中のCO2濃度上昇による地球温暖化によって地球規模での気温上昇がすでに始まっているのでしょうか？2007年の夏が暑かったと感じているあなた、本書では多くの写真により現在の地球で起こっている地球温暖化現象や、今後私たちにできる対策を紹介しています。地球環境に興味のある皆さんにぜひお勧めします。 ⑤ 猶原順先生